

委員会・部局名	教学委員会
記入日	2024年4月1日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	項目	認証評価受審に向けた対応	委員長の兼務増加により予定より遅れている。	最終原稿を完成し、学長に提出した。	A
	到達目標	認証評価に係る自己点検評価報告書最終原稿の完成			
2	項目	他の委員会との連携（部局横断体制の構築）	授業改善（教授方法の改善）に関してFD委員会との協働方針を確認した。	FD研修会にて教学部長による教務説明を実施した。FD委員会以外との連携は具体化に至らなかった。	C
	到達目標	昨年度から引き続き、関係する他の委員会と連携して業務を遂行する体制を構築する。			
3	項目	退学防止に関する施策の検討・実施	成績不芳者に対する学修改善指導を実施した。	・成績不芳者の学修指導を担当教員との連携により実施する方針を決定し、担任提供用資料（学修支援資料）を作成することとした。 ・過去の改善指導効果の検証には着手できなかったため次年度に持ち越した。	B
	到達目標	担任制度を再活用した退学・卒業防止策を整備する。			
4	項目	《IR》蓄積データの分析・活用策の具体化	データの分析・活用方法について意見共有を実施した。	共有した意見の具体的実現に至らなかったため、次年度に持ち越すこととした。	D
	到達目標	蓄積データをリスト化し、分析方法（タイミング、担当割等を含む）の概要を決定する。			
5	項目	生成AIの利用方法に関する検討	委員会での検討において、何らかの指針策定の必要性を共有した。	「教学面における生成AI活用指針」を策定した。この指針は、社会情勢等も勘案して随時の見直しを予定している。	A
	到達目標	教学部門としての方針決定			
6	項目	所管事項の効率性の点検、改善（デジタル化推進の観点）	委員会に関する連絡、資料共有等を原則としてGoogle Classroomを通じて行うこととした。	委員会業務の原則オンライン化により資料のペーパーレス化が図られた他、資料の事前共有等も容易になり一定の効率化が図られた。	B
	到達目標	Google Workspaceをはじめとする既存システムの活用による業務効率化を恒常的に図る。			
7	項目				
	到達目標				
8	項目				
	到達目標				

※下線部は中期計画との関連性が特に高い項目、《IR》はIR推進に関する項目。

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(半期) IRについては、活用できそうなデータは多いものの、施策として実現するには既存業務との調整が必要と考えられる。優先度の高い「退学・卒業延期防止」の観点から精査し、具体的な施策の実施を目指す。
(年間) 上記IRに関する具体的な施策の実施には至らなかったため、次年度の優先課題として取り組む。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
前期・後期とも教学委員による成績不芳者グループ面談（改善指導、個別相談）を実施した。本年度後期分より、面談の情報を担任教員にも共有して次学期中の改善指導を依頼し、指導効果を向上を図ることとした。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
(年間) 次年度新規採用教員の専門分野を踏まえて、「教養講義」「アクティブ・ラーニング演習」などで新規科目の開講を決定した。次年度以降も社会的ニーズ等に留意しつつ開講授業科目を随時見直していく。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	学生委員会
記入日	2024年3月25日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標	
1	多様性への配慮 ・中期計画「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養」との関連：学生の国籍、性別、性的指向、障がいの有無等により、可能性に挑戦できなくなることがないよう、環境を整備する。	・学生ガイダンス等における多様性の尊重に関する周知 ・通称名使用制度の要綱作成及び実施 ・（将来的目標）多目的トイレの設置	・4月の学生ガイダンスにおいて、多様性の尊重について説明。後期ガイダンスにおいてもあらためて周知したい。 ・通称名使用制度の要綱を作成。7月の教授会にて承認。学生に周知し、同制度を必要とする学生の利用を図る。	・2022年度に実施した学生ガイダンスを本年度も継続して実施。多様性の配慮について、性別、国籍、障がいの有無等による差別を許さない姿勢を示した。 ・通称名使用制度の要綱完成。学生に周知。1名の学生が同制度を利用し、通称名を使用。	A	
	2					
3	学友会運営支援 ・中期計画「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養」との関連：学業だけでなく、学内外のさまざまな活動を通じての成長・成熟を支援。	・清風祭の実施マニュアル作成（学生主導） ・学友会規則の改正	・5月に清風祭実行委員会を立ち上げ。準備を開始。学内外から協力を仰ぎ、多くの企画・イベントを実施予定。 ・学友会執行部の学生に学友会規則改正を打診。	・清風祭を開催。盛会。 ・清風祭実行委員会マニュアル等の整備が進んだ。 ・学友会規則の改正については目標未達。	B	
	4					
5	地域貢献活動への支援 ・中期計画「持続可能な大学運営のための諸施策の立案・実行」と「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養」との関連：地域社会における活動を通じて、学生の市民的成熟を支援するとともに、本学が地域から応援される大学となる。	・地域貢献活動の情報を学生たちに周知。 ・人員募集をサポート	・木更津第一小学校放課後子ども教室「あそぼん」の学生ボランティアとして有志学生が継続的に参加。「学友会」Classroomにて募集の呼びかけに協力。 ・木更津市消防団機能別分団学生部メンバー募集を菅原特任准教授（消防団担当）と協力して実施。定員20名に到達。	・「あそぼん」への支援を継続。 ・地域の例祭（木更津舞尊、木更津こども祭り等）への参加を奨励。 ・消防団の活動について、菅原特任准教授と協同してきたが、活動が軌道に乗ったため、今後は菅原先生のご指導のもと活動を推進（情報は今後も共有）。	A	
	6					

委員会・部局名	学生委員会
記入日	2024年3月25日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
7	ハラスメント対応 ・中期計画「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養」との関連：学生の挑戦を阻害する要因をなくし、各学生の可能性が拡大できる環境をつくるとともに、個々の学生へのサポートを図る。	・ハラスメント対応窓口・手続の周知。 ・ハラスメント事案に対する適切な対応。 ・（長期的な目標）学園と大学の各種ハラスメント規定を整理。	・後期の学生生活ガイダンスにて、相談窓口とともに、ハラスメント窓口・手続を周知予定。 ・大学の運動部活動においてハラスメント事案が発生。対応に追われた。学生のサポートが課題。	・後期の学生生活ガイダンスにて周知、ハラスメント窓口・手続を周知。 ・ハラスメント被害の学生サポートには、教職員だけでなく、他の学生によるサポートも必要。	C
8	中途退学、休学及び留年への対応 ・中期計画「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養」との関連：退学等によって学生の将来の可能性を閉じないよう制度の構築を図る。	・中途退学は、学生生活のみならず、運動部活動、学修状況を原因とする事例が多くある。他の委員会と協同で、全学的に取り組む必要あり。	・4月の退学者は、学業成績不振によるスポーツ特待生資格の剥奪、降格によるものである。スポーツ部、教学部との協働を考案したい。	・目標未達。 ・スポーツ部、教学部と協同の施策が必要か。	E

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
<p>・昨年度から今年度にかけて目標に掲げた事項（多様性への配慮、学生相談の強化、学友会・同好会・サークルの活性化等）については、着実に成果を上げることができた。来年度も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・次年度以降は、委員会を超えた課題（退学防止等）や長期的な課題（学園の協力が必要な事項。例：トイレ等施設の改善等）に取り組み、目標に近づけていきたい。</p> <p>・学生への支援・対応には、相応の専門知識が必要である（いくつかの講習等を受講してそのことを痛感した）。本来、専門スタッフの常駐が望ましいが、教職員のみなさんの負担にならない範囲で、可能な限り、研修等の機会を確保し、学生の支援に的確にあたれるようにしたい。</p>

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
<p>・学生による地域貢献活動を推進してきた。木更津市市制施行80周年記念事業等において本学学生が活躍することにより、地域から頼りにされ、応援される大学になってきたのではないかと思う。</p> <p>・学生委員会に限らず、学生の社会での活躍を後押しし、学生の成長を促し、あわせて、学生たちの活躍を学内外にアピールすることも重要かと考える。</p>

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	図書館委員会
記入日	2024年1月18日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	定期的な図書選定による蔵書の充実		限られた予算内ではあるが、選定基準を配慮しつつ新刊書リストを精査して定期的な選書を実施した。IR報告書に掲げた「図書館の使命」に則って、一定の質を担保する蔵書が実現できた。また、教員・学生からの購入希望図書も予算の範囲で可能な限り受入れた。	前後期を通して、限定的な予算と書架スペースの中ではあるが、図書選定基準に依拠しつつ、新刊書の選定が滞りなく実施された。同時に、教員・学生からの購入希望図書も可能な限り受入れて、大学図書館として一定の質を担保する蔵書を確保することができた。	A
	本学のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに沿った必要かつ十分な蔵書の確保と、図書館利用者の所蔵希望を実現する。				
2	蔵書としての必要性がなくなった図書の選定・廃棄		第2回及び第4回の定例会議において、不要となった図書の廃棄を決定し、退職・転出教員が所蔵していた図書のリサイクルを随時実施したが、引き続き書架スペース確保のため、不要図書の廃棄を継続してゆく必要がある。	年間を通して、不要図書の選定・廃棄が迅速かつ確に進められ、退職・転出教員が所蔵していた図書のリサイクルも随時実施されたが、蔵書内容の刷新と所蔵容量の逼迫に対処するため、引き続き不要図書の廃棄を継続してゆく必要がある。	B
	時の経過、法令の改正等により、図書館の蔵書としての意義がなくなった図書（受験参考書、学習用図書、リサイクル図書等を含む）を選定・廃棄して、随時蔵書内容の刷新を図るとともに、書架スペースを確保する。				
3	クラス別図書館ガイダンスの実施		≪IR≫新入生の少人数クラスで図書館ガイダンスを実施し、導入教育を充実させたが、新入生以外の学生にも随時、図書館の利用情報を提供し、図書館における自発的学習の支援を促進させた。（中期計画p.16(i)(b)）ただし今後も、2年次生以上への情報提供の拡大が、継続した課題である。	新入生については、プレゼミ等のクラス別に図書館ガイダンスを実施し、アドミッション・ポリシーを配慮した初年次教育を充実させた。また新入生以外にも、学生の要望に応じて随時、図書館利用情報やレファレンス・サービスを提供して、自発的学修支援を促進させた。	A
	アドミッションポリシーを踏まえた高大接続教育、ないし新入生の導入教育を充実させると同時に、2年生以上も含めて図書館を利用した自発的学習の支援を促進させる。（中期計画p.16(i)(b)）				
4	蔵書の電子化の継続		今年度前期においては、冊子体を停止して電子雑誌に切り替え得たものはなく、十分な成果が上がったとは必ずしもいえない。今後引き続き、予算の範囲内で、蔵書の電子化への取り組みが必要である。	年間を通して、図書・雑誌とも電子化が実現した蔵書は1件もなく、2021年度に冊子体の外国雑誌を停止して電子化を実施して以来、予算の制約もあって蔵書の電子化については十分な成果が上がっていない。洋雑誌の価格高騰と書庫狭隘化に対処するためにも、今後はこの項目に重点的に取り組まなければならない。	C
	電子ジャーナル、電子ブックが普及増大した社会的状況、本学図書館の書架スペースが狭隘化した現状に対処するため、予算の範囲内で実現可能な蔵書の電子化に順次取り組む。				
5					
	項目	到達目標			
6					
	項目	到達目標			
7					
	項目	到達目標			
8					
	項目	到達目標			

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄

- ・従来の活動を発展的に継続し、入館者のさらなる増加を目指したい。
- ・(次年度年間)今年度の年間到達度評価で(A)評価であった項目1(定期的な図書選定による蔵書の充実)、および項目3(クラス別図書館ガイダンスの実施)については、図書館としての継続的活動項目であり、毎年度着実に実施すべきものであるため、次年度もA評価を目指すべく年間計画に掲げておかなければならない。
- ・(次年度年間)他方、(B)評価であった項目2(蔵書としての必要性がなくなった図書の選定・廃棄)については、今後も、蔵書内容の刷新と所蔵容量の逼迫に対処するため、引き続き不要図書の廃棄を積極的に推進してゆく必要がある。
- ・(次年度年間)また、(C)評価であった項目4(蔵書の電子化の継続)については、昨年度に引き続き今年度も、種々検討したにも拘わらず、成果が十分に上がらなかったため、次年度年間を通して何らかの成果を上げるべく取り組んでゆかなければならない。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

- ・図書館入口のディスプレイ(書籍掲示)を、折々のテーマを取り入れて、学生さんの興味を引くような題材に、定期的に替えている。入館の折に、それらのディスプレイを見て回る学生さんも多い。コロナも収束し、座席数も従来の数に戻すことができた。
- ・(年間)今年度の活動項目3(クラス別図書館ガイダンスの実施)は、図書館が毎年度実施してきた継続的活動項目であり、教員と図書館職員との協働に基づきつつ、学生に対する導入教育や少人数教育を充実させる上において、また、学生からの要望に応じた図書館利用情報・レファレンス情報等の提供により、自発的学修の支援を促進させる上においても、相応の成果を上げていると考えられる。

IV. 特色のある活動・取組み/新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

- ・パソコンコーナーの充実を図っている。時間をかけずに、起動、終了が可能となっており、学生さんからも好評である。Wi-Fiの範囲も広がり、スマートフォンからの印刷も容易になった。
- ・(年間)(IR推進状況報告書に記載)今年度新規に、前期の授業アンケートの時期に合わせて、学生の図書館利用状況アンケートを実施し、そのデータと学生の学修姿勢や成績との間に相関関係があるか否かの実態調査を行ったところ、相応の相関関係を読み取ることができた。これは、学生の図書館利用状況と成績とに相関関係があるという一般的言説を、本学において実態検証しようと試みたもので、前期に続けて後期にもアンケート調査を行い、補足データが得られたなら、それをIR推進活動の一環としても、学生に向けた図書館利用へのPRと学力向上の双方に利用することにより、図書館の新規の活動とすることができると考えられる。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	スポーツ部運営委員会
記入日	2024年4月30日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	項目	指導者のより公平な評価	学園の予算に係るところなので、環境整備に必要性を訴えてはいるが、進んではない。	指導者は現場での指導、スカウト活動、入学者の獲得に向けて高校側との折衝など、ギリギリの努力を続けており、その貢献に報うための適切な評価、報酬制度のさらなる充実が求められるところではあるが、現実には進んでいない。	E
	到達目標	より公平、公正な貢献に応じた評価、報酬制度を整備することで、指導者のモチベーションを上げ、クラブ活動の成績向上につなげる			
2	項目	UNIVAS活動	UNIVASからの情報、報告をその都度共有している	UNIVASからの情報、報告をその都度共有している。現状はこれ以上のコミットメントは難しいと思われる。	B
	到達目標	UNIVAS活動に対してのより一層の協力、貢献			
3	項目	スポーツ活動環境の一層の整備	学生の安全、満足度を高めるためにも早急の対策が望まれる。しかし、予算の問題、学園全体の財政ともからみ、委員会では危急の課題とするも、踏み込めない。	学生の安全、満足に加え、学生獲得に向けて本学のスポーツ環境の向上は待ったなしの課題であるが、学園全体の財政方針があり、ほとんど進んでいない。その中において令和6年3月にトレーニングセンターに、最新機器が設置されたことは、特筆すべき出来事であった。	C
	到達目標	野球部等での施設改善			
4	項目	強化指定団体の健全な活動の支援 ①事業計画・事業報告書の管理支援	計画支援は順調に進行中	活動支援は順調で、委員会と各運動部の連携もうまくいっている。	B
	到達目標	委員会、各部がより一層連携を強め、ガバナンス、透明性に留意し進めていく			
5	項目	強化指定団体の健全な活動の支援 ②会計管理（予算・決算）の管理支援	計画支援は順調に進行中	活動支援は順調に推移し、委員会と各運動部の連携もうまくいっている。	B
	到達目標	委員会、各部がより一層連携を強め、ガバナンス、透明性に留意し進めていく			
6	項目	強化指定団体の健全な活動の支援 ③成績不芳者指導支援	コロナで苦慮している学生に配慮しながら、例年にも増して各部ごとに徹底して支援している。成績基準も共有して指導徹底に努めている。現場の監督、コーチだけでなく、委員長を始めとした教員が徹底して卒業可能な単位取得に向け、徹底指導を始めた。	スポーツ部所属者全員の学業とスポーツ活動の両立の支援として、成績不良者の指導、支援をさらに充実させている。	B
	到達目標	委員会、各部がより一層連携を強め、ガバナンス、透明性に留意し進めていく			

委員会・部局名	スポーツ部運営委員会
記入日	2024年4月30日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
7	項目	強化指定団体の健全な活動の支援④部活動不参加部員の特待生認定の検討	<p>説明（後期に向けた方針等を含め）</p> <p>これまでに比べ、部活動不参加学生に対し、特待生認定を外すことも辞さない厳しさをもって臨んでいる。</p>	<p>説明</p> <p>一層厳しい姿勢で、部活動への参加を促し、特待生認定をより厳格に評価している。</p>	B
	到達目標	学生との話し合いはもちろんのこと、全体の公平性を考えつつ、プロセスを大事にして進めていく			
8	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑤スポーツ特待生資質条件・適正規模の検討	<p>説明（後期に向けた方針等を含め）</p> <p>計画支援は順調に進行中だが、定員確保の条件とも関係するので、慎重に進めている</p>	<p>説明</p> <p>計画支援は引き続き順調に進行中だが、定員確保の条件とも関係するので、慎重かつ積極的に進めている</p>	B
	到達目標	大学全体の方向性、戦略に鑑みて進めていく			
9	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑥指導者の確保	<p>説明（後期に向けた方針等を含め）</p> <p>現実には、学園の職員定数、予算の問題あり、理想の状態とは離れていると言わざるを得ない</p>	<p>説明</p> <p>指導者に求められる資質は、多岐にわたりより高いものを求められつつある。そんな中でよき指導者確保は喫緊の課題だが、予算、財政の問題があり、理想とはまだ遠い。</p>	E
	到達目標	よき指導者の確保はスポーツ部全体の最重要課題であり、全力を上げこれに取り組む			
10	項目	強化指定団体の健全な活動の支援⑦適正な部員数の検討	<p>説明（後期に向けた方針等を含め）</p> <p>定員確保、活動環境改善とリンクするので検討の段階に至らず。</p>	<p>説明</p> <p>部員と施設の受け入れ能力のバランスがとれていない。しかし現実、定員数確保のためにそれを言っていられない状況にある。今年度は適正部員数には及ばなかった。</p>	E
	到達目標	定員充足の具合を見ながら、現実的な数字を模索する			

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
成績不芳者指導支援 に関して、柔道部は独自に講義出欠表を作り、講義のたびに教員に提出、部員の学習に対する意識とやる気を高める一助になっている。施設の面では、トレーニングセンターの管理保全に対し、安心安全の観点から、これにより留意し、必要に応じ使用ルールの改定、より安全で効率的なマシン導入などを適宜行っている。予算の中で、できるだけの運営努力を重ねている。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	教職課程委員会
記入日	2024年3月30日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）		③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標	
1	文部科学省による教職課程実地視察への対応について	①教職課程関連書類の作成・整理 ②視察事項（質問書）への対応 ③実地視察の受け入れ態勢の構築及び視察当日の対応 ④実地視察報告書等への事後対応	年度当初に予定したものではないが、8月下旬に文科省から視察実施の連絡があり、10月10日の視察実施となった。必要書類及び視察事項（質問書）への対応、当日の対応等、関係各位の協力をいただき大きな問題なく終えることができた。中教審委員及び文科省担当者からも高く評価いただけた。	実施視察への事後対応として、文科省から助言いただいた項目（教職課程科目の名称変更等）に対して、学則別表3の改正を提起した。2024年3月教授会での審議を経て理事会で承認をいただくことができた。以上により本項目への対応は完了した。なお、文科省による実施視察評価は2024年度中に公表される。	A	
2	【中期計画p.10右⑥】教育職員免許法施行規則に基づく教職課程の「自己点検・評価」について	①教職課程に関わる体制整備の点検 ②教職課程の「自己点検・評価報告書」の作成（年度末公開）	昨年度から毎年度末に公開が義務付けられ、3月末に公開した。今年度は昨年度の報告書をベースに加筆・修正を加えていくことを基本方針としている。文科省による教職課程実地視察を受審したことを特記事項として掲載する予定である。①は教職課程履修規則などの改定を実施した。②は後期に実施。	教職課程委員会での原案を作成し、2024年3月に自己点検・評価委員会での意見聴取、教授会での審議・承認、学長の確認を経て、2024年3月29日に本学HPにて公開された。	A	
3	【中期計画p.7右イ】教職課程履修者のICT活用能力の向上	①新設科目「教育方法・ICT活用論」におけるICT機器の活用 ②「指導法科目」「教職実践演習」におけるICT機器の活用 ③「教職基礎演習」やガイダンス等におけるICT機器の活用	教職科目「教育方法・ICT活用論」を今年度より開講し、ICT機器を用いた教材発表等を通じて活用能力の向上を図った。10月にデジタル教科書の配備がなされ、後期科目では学生に操作させて模擬授業の実施を予定している。教職基礎演習ではICT機器を用いた解答入力を開始した。	デジタル教科書は情報システム委員会の全面的なご協力のもと、学内サーバ内に置いていただくこととなりようになった、学内にて学生が自由に使用できるようになった。後期科目（社会科・公民科指導法IV、教材開発演習、教職実践演習）でも使用し、模擬授業などを通して学生のICT活用能力の向上を図った。	A	
4	「IR」教職課程アンケートの継続的実施	①教職課程履修者への調査 ②教員採用試験受験者への調査	教職課程のIR活動として、アンケート調査を継続的に実施することでデータの蓄積を図るとともに、分析を通してよりよい教職課程運営に努めたい。①は昨年度より実施開始しており、委員会で情報共有済み。②は新規事業として今年度から開始し、今後の学生指導に反映させたい。	②に関連して、教員採用試験合格者から面接試験の質問及び回答内容についての調査を行った。Chat-GPTの学校教育における活用の是非などICT関連の質問もなされており、来年度の教職課程科目や教員採用試験対策で活用していきたい。	A	
5	【中期計画p.9左g、p.11右iii】本学で取得できない教員免許を希望する履修者への支援強化（中高保健体育、小学校、特別支援学校）	①星槎大学との連携強化、学生指導に関する情報共有 ②保健体育や小学校などの教員採用試験対策の実施方法を検討する	①継続的な取り組みがなされている。 ②今年度は小学校教員採用試験受験者が2名おり、夏季休業期間を利用して、市内の公立小学校教員を招聘して教員採用試験2次対策を実施した。結果として、2名とも千葉県教員採用試験に合格した。	①については、星槎大学からの情報提供や本学での基本的な支援体制は確立できている。ただ、支援体制の強化には至っておらず、来年度は本学でのスクーリングの可能性など、本学履修者の負担軽減策を検討したい。 ②については今年度単発的な実施はできたので、来年度は回数の増加などを検討したい。	B	
6	【中期計画p.3左A】教職インターンシップ活動の制度検討	①教職インターンシップ活動報告書の様式変更 ②活動期間の短縮、回数の上限定額 ③千葉県立天羽高等学校（連携校）におけるインターンシップ活動再開	年間を通じた継続的な教職インターンシップ活動を行っており、学校現場から学ぶ効果があるものの、参加学生の学業との両立等の観点から負担軽減を図ることを検討している。①は項目を精選して分量を半減した（実施済み）。②は木更津市教育委員会、③は天羽高校と年度内に意見交換を予定している。	②について木更津市教育委員会指導主事の先生方と意見交換を行い、大学における学修と学校現場における実習を両立しやすくするため、大学の授業期間内での実施、月2回、年15回程度での回数制限を快諾いただいた。③は天羽高校の管理職及び実習担当の先生方と意見交換を行い、年15回での実施で合意した。	A	
7	教職課程の広報活動の積極化について	①教職課程を紹介するパンフレットの作成（オープンキャンパスで配布・説明） ②大学HPにおける教職課程に関わる情報の積極的な発信	①実施済み（2023年度用資料を配布）。 ②教員採用試験結果など随時情報発信を行っている。	①に関連して、教職課程の概要についてオープンキャンパス以外に、保護者対象進路説明会、木更津総合高校進路ガイダンスなどでお話しする機会を得た。 ②は教員採用試験結果を即時性をもってHPで公開してきた。来年度は学生の取り組みをさらに多く発信していきたい。	B	
8	教職課程卒業生との連携強化及び同窓組織の立ち上げ準備	①教職課程卒業生の本学への招聘（オープンキャンパス、学生指導） ②「教職OB・OGグループLINE」を基盤とした教職課程同窓組織の立ち上げ準備	①昨年度の千葉県教員採用試験現役合格者（中学校社会科教員）を8月のオープンキャンパスに招聘した。あわせて教員採用試験1次合格者に対して、2次対策を実施した。 ②未着手。	②については、3月に卒業した学生たちを新たに「教職OB・OGグループLINE」に追加することができた。ただ、依然としてLINE内でのやり取りにとどまっており、同窓組織の立ち上げには至っていないことから来年度の課題としたい。	C	

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
【後期に向けた目標】 ①ICT化への対応推進：教職課程科目においてICT機器をさらに活用し、学生のICT利活用能力の向上を図りたい。 ②教職インターンシップ活動の制度変更：後期に木更津市教育委員会と実習期間や回数などについて意見交換を行う。 【来年度に向けた目標】 ①学生のICT活用能力の向上：日常的な学びの中でのICT機器の利活用を一層推進したい。 ②教職インターンシップ活動における部活動指導補助の拡大：木更津市にて部活動の地域移行の検討が始まっており、強化指定部を抱える大学の教職課程として地域スポーツの振興にどのように協力できるか検討したい。

III. **継続的に行なってきた活動・取組み**のなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
①【中期計画p.3右D】教員採用試験合格実績 ・「教員になれる大学」を目指して諸々の施策を行ってきた結果として、 <u>2024年度千葉県・千葉市教員採用試験にて過去最高の4名の現役合格者を輩出した</u> 。内訳は高校情報1名、中高社会1名(天羽高校へ赴任)、小学校2名である。公立学校における高校情報の合格者は本学初となる。他にも、大阪府小学校1名、佐賀県私立高校1名、兵庫県幼稚園2名の現役合格者を輩出できた。 ・本学の場合、講師登録から教職のキャリアをスタートする者が多く、数年間の現場勤務を経て正規採用に至るケースが見られる。2024年度教員採用試験に関する既卒者の合格実績は、千葉県特別支援学校1名、横浜市中学社会1名であった。また、2024年3月卒業生で講師登録を希望した者は、小学校を中心にすべて赴任先が決定した。

IV. **特色のある活動・取組み／新規活動・取組み**のなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
①基礎学力の向上 ・4年間の「清和大学社会科検定」を通して、社会科の基礎学力の確認から教員採用試験対策まで行っている。 ②実践的指導力の向上 ・2年次から継続的な学校現場でのインターンシップ活動に参加することで、教員や児童生徒との関わりを経験的に学んでいる。 ・3年次末に実施する「教育実習事前指導」にて教育実習予定者全員に「50分模擬授業」の実施を求め、クリアできるまで指導している。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	キャリアサポート委員会
記入日	2024年4月30日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	項目	保護者対象説明会の実施	準備中	12月に実施	A
	到達目標	対面での実施			
2	項目	就職出陣式の実施	4月に対面で実施	次年度の新4年生向けの開催に向けて準備中	A
	到達目標	対面での実施			
3	項目	「キャリアセンター開講授業科目」の見直し	検討中	次年度、①公務員試験対策講座、②教員採用試験対策講座の開講科目の見直し・拡充を実施	A
	到達目標	より、実践的、効果的な科目構成の実現			
4	項目	入試広報業務との連携	より頻度を上げる必要がある。	本学キャリアセンターの活動について、さらに、高校生に関心を持ってもらえるような広報活動が必要	B
	到達目標	大学HP、SNS、および、OC参加者・高校等への配布用ピラ等を通じた、より高校生の目を惹くような、広報活動の実施			
5	項目				
	到達目標				
6	項目				
	到達目標				
7	項目				
	到達目標				
8	項目				
	到達目標				

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
①引き続き、公務員試験について、希望者の一人でも多くの合格者を出すことを目指す。 ②引き続き、民間希望者についても、一人でも多く、本人希望の進路実現を目指す。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
①1年次の段階から、充実した「公務員試験対策講座」を提供することで、継続して、多数の公務員合格者を出すことができています。 ②1・2年次「キャリア養成講座Ⅰ・Ⅱ」、3年次「キャリアサポート講座」、および、進路指導室における就職活動の学生一人一人への個別的なサポート等により、継続して、今年度も、極めて高い「就職率」を維持できている。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
引き続き検討中。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	SD委員会
記入日	2024年3月29日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	(IR) チャレンジシートの実施		全職員がチャレンジシートを作成し、評価者に提出することができたが、目標区分の記入内容（難易度含）に関して共通理解が十分ではなかった。部署によって面談ができなかった。後期、中間の進捗状況の提出を含め、面談未実施をなくす。	(IR) 全職員がチャレンジシートを作成し、中間申告、最終申告と評価者に提出することができたが、依然目標区分（難易度含）に関して、評価者を含め共通理解が十分ではなかった。面談については、おおむね実施でき、評価者と職員とのコミュニケーションは図れた。	B
		チャレンジシートを作成・活用し、事務職員の業務やサービス及び個々の能力開発に係る目標を明確にし、面談等で管理職と記入事項を共有するとともに、コミュニケーションの深化及び事務職員の育成を図る。			
2	(IR) 本学主催のSD研修会の実施		SD委員会において、SD研修会実施について協議し、令和6年2月15日実施（予定）に向けた準備を計画中である。	(IR) R.6.2.15にSD研修会として、外部講師を招聘しての「ハラスメント防止対策研修会」を実施することができた。休職中の教職員を除く全教職員（67名）の参加であった。研修内容については高評価であった。（アンケート結果による）	A
		ハラスメント防止研修会を実施する。			
3	(IR) 学外団体主催「研修会」への参加		前期における学外団体主催の研修会への参加は、昨年度並みである。来年度の認証評価に向けても、後期さらに研修会への積極的参加を呼びかける。	(IR) 前期の学外団体主催の研修会への参加は17回（昨年度19回）。昨年度はオンラインがほとんどであったが、今年度は対面での研修会もあり、充実した研修であった。後期については、学内事情等もあったが、例年並みの参加回数であった。	A
		学外団体が主催する研修会へ積極的に参加することにより、今日的な課題及び先進的な事例等を学び、本学の業務・活動に活かす。			
4					
5					
6					
7					
8					

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(年間) チャレンジシートの継続 (IR) (年間) SD研修会実施 (年1回) 研修内容については、SD委員会にて協議する。 (IR) (年間) 学外団体主催の研修会への積極的参加及びOJTの積極的活用 (IR)

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
(IR) SD研修会は、教職員が同様の内容により共通理解・共通認識が図れる有意義な研修の場であることから、今後も継続して実施していく。研修内容についてはSD委員会で協議し決定していく。 (IR) 学外団体主催「研修会」は、今日的な課題及び先進的な事例等を学部機会となり、本学の業務・活動に活かすことのできるものであることから、積極的に参加できる体制を整え全課で取り組んでいく。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
(IR) チャレンジシートの実施 本年度より本格的に実施を開始したチャレンジシートは、事務職員が自らの業務内容を整理し、業務をスムーズに遂行するための手立て等を考えたり、能力開発に係る目標を明確にしたりすることで、より客観的な視点で業務を見直すことができるものであると考える。さらに、評価者（管理職）との面談によりチャレンジシートの共有化もでき、コミュニケーションの深化及び事務職員の育成を図ることができる取り組みである。事務職員のスキルアップ及び風通しの良い職場づくりに有効であり、今後さらに精度を上げ継続していきたいと考える。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	F D委員会
記入日	2024年4月30日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	授業改善のためのアンケート		前期は予定通り実施済み。集計資料作成作業が遅延。後期中に到達目標③に係る検討を実施予定。	到達目標③については委員会内の意見交換に留まっているため、教員（専任・非常勤とも）の意見も聴取し、分析・活用方法の具体化を目指す。	B
		①前期・後期とも全科目で実施し、担当教員からのコメントを取得。 ②集計資料を作成し、学内で共有するとともにWebサイトで公開。 ③《IR》アンケート結果の分析・活用方法（各種データとの相関分析等）の提案。			
2	オープン授業		前期授業期間中に実施済み。34名の教員が参観を受け入れ、コメントへの応答を寄せた。後期実施のFD研修会で資料を共有するとともに、委員会では資料活用方法を検討予定。	資料の具体的な活用方法の策定に至らなかったため、資料共有方法の再検討も含めて次年度に引き続き検討する。	B
		①前期開講科目を対象として実施。 ②参観コメントと担当教員の応答を資料としてまとめる。 ③資料の活用方法を検討。			
3	FD研修会		前期授業期間中に2回開催。後期も同程度（または前期比1回増）の開催を予定。上述のオープン授業を題材とする研修会を非常勤講師も対象とする方向で調整。	学内諸会議との兼ね合いで後期は1回開催に留まった。ただし、効果的な開催頻度という観点から、比較的長時間の研修会を前期・後期各1回、FD活動説明等の小規模研修会を必要に応じて前期・後期各1回程度の開催を標準とすべきとの結論に至った。	B
		①授業期間中は前期・後期とも2回（以内）の実施に変更。 ②非常勤講師も対象とする研修会を年度内1回（以上）実施。 ③委員会において教学委員会との連携強化策を立案。			
4	認証評価受審に向けた対応		全学のスケジュール表に沿って必要な対応を実施。	到達目標を達成した。	A
		①自己点検評価報告書の最終確認。 ②自己点検評価報告書記載エビデンスの情報更新。			
5	教授方法の改善（含・新たな教授方法の開発）に係る計画策定		前期中は未着手。	FD研修会においてアンケート高評価教員の座談会を実施し、教授方法の改善に向けた基礎資料を得るに留まった。	D
		①授業科目種（講義、演習、実技）別の検討方針決定。 ②実践までのスケジュール表の策定。 ③《IR》FD活動に係る蓄積データ活用方法の立案。			
6					
7					
8					

※下線部は中期計画との関連性が特に高い項目、《IR》はIR推進に係る項目。

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(半期) 教授方法の改善提案に向けた検討に着手する。他の委員会（特に教学委員会）との連携・協働体制を確立する。 (年間) 委員長（両委員会兼務）が各委員会において連携・協働の必要性に言及するにとどまっているので、教授方法改善策の検討にGPAデータを活用するなど、連携・協働の具体化を推進する。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
法学部開講授業科目、教職課程科目、キャリアセンター開講授業科目の全てについて授業改善のためのアンケートを継続し、担当教員に授業改善の契機を提供している。

IV. 特色のある活動・取組み/新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
授業改善のためのアンケート高評価教員による座談会形式の授業実践報告は今後も継続したい。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	国際交流委員会
記入日	2024年 3月 22日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	項目	オンライン留学事業の推進 (清和大学中期計画 pp. 7-8, ③「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養-(ハ)英語力-(c)」)	定員の9名を選考の上参加させた（1名が体調不良により辞退）。全員に報告書を課し、語学力の向上と国際的なコミュニケーション能力の向上という目的を果たせたことを確認。	留学先の修了証と成績証明書を審査し、参加者8名全員に単位認定することができた。	A
	到達目標	カナダの語学学校での2週間のオンライン留学(2023年8月)を修了させ、1単位を修得させる。予算枠9名の定員を満たす。			
2	項目	《IR》学生の国際交流希望ヒアリング	《IR》ヒアリングした学生の要望を反映して、夏休みのオンライン留学期間中のpc貸出体制拡充を行った。今後実現を検討すべき要望が多く残った。	《IR》ヒアリングの内容をデータ化してIR共有フォルダに格納。また、短期大学部との共催についての意見があったことから、メリット・デメリットを取りまとめ、委員会から報告を行った。	B
	到達目標	学生の意見・要望を広くくみ上げ、学修支援体制の改善及び今後のプログラム企画の立案に反映させる。			
3	項目	《IR》オンライン留学参加者のデータ保管・公開	前期では準備段階である報告書の提出まで。これをもとに後期に報告会を開催する。	《IR》10月にオンライン留学参加者の報告会を実施。体験の共有、教職員からのフィードバックを行った。報告会の内容は、大学HPに掲載して学内外の閲覧に供し、データとしても保存して今後活かせるようにした。報告会の時期については、次年度からは、参加者の記憶の新しいうちに早めに開催するように改善したい。	B
	到達目標	報告会を開催して参加学生が体験を共有すると共に、その内容を大学HPに掲載して学内外の閲覧に供する。			
4	項目	国際研修事業推進 (清和大学中期計画 pp. 7-8, ③「学生が可能性に挑戦するために必要となる能力の涵養-(ハ)英語力-(c)」、p. 9(C)「学外ニーズ等の取り込み」)	木更津市役所の「中華人民共和国山東省訪問青年交流イベント」への学生派遣要請により8名の学生を選考・派遣（2023年8月）。国際交流委員会副委員長の野呂教授が引率。本学初の試みであり、準備から困難が多かったが、全員が大きな成果を得て無事に帰国。	9月に、参加学生と引率者の野呂教授（副委員長）が木更津市役所を訪問し、報告会でスライドを使ったプレゼンテーションを行った。木更津市長、副市長、教育長も出席。訪中交流イベントの成果を示し、木更津市との連携を深めた。	A
	到達目標	オンライン留学以外の国際研修事業を企画。英語力以外の国際性を伸ばす。可能であれば、市役所や国際交流を行っている関係機関と協力。			
5	項目	《IR》国際交流研修記録（参加者の卒業後進路追跡データ）作成	《IR》国際研修に参加した卒業生の就職先に、航空会社、自衛隊等。後期以降継続してデータを蓄積する必要がある。	《IR》2023年度の卒業生の就職先を、国際研修参加者の卒業後進路追跡データに加筆し、IR共有フォルダに格納。航空会社、銀行、自衛隊等、国際性を必要とする就職先が見られ、研修の成果を確認。まだ4年分であるが、今後も継続してデータの蓄積を行っていく。	B
	到達目標	2019年度以降の国際研修参加者のデータベースを作成、卒業後の進路追跡データを保管。学生のニーズに応え、進路をサポートする基盤とする。			
6	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
	到達目標				

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
<p>【国際交流プログラムについて】</p> <p>2023年度の「中華人民共和国山東省訪問 青年交流イベント」のように、英語圏以外の国際交流プログラムについても、次年度以降の企画を検討していきたい。</p>

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
<p>【オンライン留学について】</p> <p>コロナ禍で渡航による留学ができなくなったことから2021年度に実施を始めたオンライン留学だったが、部活や学費のためのアルバイト等により長期の休みが取りにくい本学の学生のニーズに合い、参加希望者が年々増えて、最近では定員を超える応募者を得ている。木更津という土地柄や、英語を話す不安のため、海外に行くのをためらう学生の最初の一步としても有益で、オンライン留学を終えた後に海外に行く学生もいる。2022年度には1単位を認定できるように制度を整え、正規のプログラムとして位置づけることができた。2023年度には、募集活動時に教職員が学生にヒアリングを行い、学生の意見・要望を広く汲み上げ、学修支援体制の拡充及び今後のプログラムの立案に反映できるようにした。留学に参加した卒業生の進路のデータベース化も始め、まだ4年分であるが、航空会社、銀行、自衛隊員等、国際性が必要とされる就職先が多く見られ、成果を確認している。今後も継続して着実に成果をあげることを目指しつつ、本学で多数を占めるスポーツ部の学生の希望もより多く取り入れていきたい。</p>

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
<p>【中華人民共和国山東省訪問 青年交流イベントについて】</p> <p>2023年8月16日から22日にかけて、木更津市役所からの依頼により、かねてから同市と友好関係にあった中華人民共和国 山東省・東営市の「山東省訪問青年交流イベント」に、本学学生8名と引率者・野呂一郎教授（国際交流委員会 副委員長）が参加した。これは、日本の若者を山東省に招待し、観光名所、ビジネス拠点の見学、大学訪問等の機会を与え、もって一層の日中友好を実現する、という趣旨であった。参加学生は、青島を中心にバスで大明湖、百花洲、世界遺産 泰山などを見学し、山東師範大学、曲阜師範大学では中国の学生たちと意義のある交流を行ってきた。山東師範大学で行われたディナーショーでは、現役剣道部部員や空手道に心得のある学生らが演武を披露して交流に貢献し、中国側から「非常に素晴らしかった」との声を頂いた。学生たちは、中国という世界に大きな影響を与えている存在をその目で、身体全体で経験し、結果、彼らの国際的な視野は大きく広がり、このイベントは大成功に終わった。</p> <p>また、帰国後は参加学生と野呂教授で木更津市役所を訪問し、報告会でスライドのプレゼンテーションを行った。木更津市長、副市長、教育長も出席する中で、訪中交流イベントの成果を示し、木更津市との連携を深めた。</p>

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	自己点検・評価委員会
記入日	2024年4月1日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	項目	2024年・機関別認証評価受審に向けた認証評価報告書作成等の完了	委員長の交代により予定より若干遅れている。	・本委員会での定期的なスケジュール確認と情報共有により、各部門の円滑な受審準備を支援した。 ・本委員会の担当内容については、エビデンスの精査が若干遅れており、次年度早々に完了を目指す。	B
	到達目標	認証評価に係る自己点検評価報告書最終原稿の完成と全部門の受審準備に関する調整を行う。			
2	項目	《IR》活動報告書を軸とした効果的なPDCAサイクルの確立	全委員会から2022年度年間活動報告書の提出を受けた。必要な情報は適宜共有しつつも、今期は上記1の受審準備等を優先させた。	後期開始直後に全委員会から2023年度半期活動報告書の提出を受けた。引き続き、上記1の受審準備の支援を優先させたが、各委員会とも立案した年間計画に基づいた業務遂行が確認できた。	B
	到達目標	各委員会の委員長を通じて、全教職員が大学全体の課題を共有し、委員会・部局横断的な対応も迅速に実施できる体制を構築する。			
3	項目	所管事項の効率性の点検、改善（デジタル化推進の観点）	特記事項なし。	次年度に持ち越し。委員長案として、委員会資料については原則としてGoogle Classroom経由の共有とし、ペーパーレス化を推進したい。	E
	到達目標	Google Workspaceをはじめとする既存システムの活用による業務効率化を恒常的に図る。			
4	項目				
	到達目標				
5	項目				
	到達目標				
6	項目				
	到達目標				
7	項目				
	到達目標				
8	項目				
	到達目標				

※下線部は中期計画との関連性が特に高い項目、《IR》はIR推進に係る項目。

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
(半期) 本年度は認証評価受審準備の最終段階となるため、これに最優先で注力することとし、年間計画も必要最小限度に絞り込む方針とした。
(年間) 現行中期計画〔「Let's act 5（19-23）PLAN」〕は本年度が最終年度であったが、期間中に新型コロナウイルス禍の直撃を受け、特に2020年と2021年は全学を挙げてその対応に注力せざるを得なかったこと等に鑑み、委員長から学長に対して同計画の1年延長を上申して了承を得た。2024年度中に、本委員会が中心となって同計画の実施状況の検証と次期計画案の立案を行う予定である。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
活動報告書を軸としたPDCAサイクルの基礎は確立したと考える。今後も運用を続けると共に、円滑なサイクルとなっていない部分がないかを検証していく。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	法学会運営委員会
記入日	2024年3月25日

2023年度 活動報告書

1. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	項目	紀要刊行	対象期間では『法学研究』1点の刊行が想定されうるが、投稿の照会または希望がない。	両誌とも年度末において漸く刊行の目途が立った状態で実際の発行は年度を超えて行われるであろう。	E
	到達目標	『清和法学研究』第25巻2号、第26巻1号 『清和研究論集』第29号			
2	項目	研究報告会 開催	報告者急病による流会を除けば計画通りの実施	研究報告会復活初年度として、専攻、年代等々において多彩な報告と示唆的な質疑応答が行われた。	B
	到達目標	前期5、6月 後期10、11、1月			
3	項目				
	到達目標				
4	項目				
	到達目標				
5	項目				
	到達目標				
6	項目				
	到達目標				
7	項目				
	到達目標				
8	項目				
	到達目標				

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
当委員会は、任務/作業が紀要各誌刊行及び研究報告会実施(研究論集「学会記事」掲載)によりすべて公表されて確認可能となるという業務の性質から、IR推進に関して特段の施策が必要であると認識してこなかったが、改善点の追求等の所要の委員会審議を継続することが望まれる。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
なし

IV. 特色のある活動・取組み/新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
なし

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	入試広報運営委員会
記入日	2024年 3 月 29 日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	併設高校、近隣連携高校との連携深化 (ii)-(A) P3	連携を深化するための具体的な内容を確認・協議し、実行をするための調整を行う。	併設高校である木更津総合高校との協議にもとづき、3年生対象の施設見学・クラス単位の説明会を実施。2・3年生対象にオープンキャンパスを平日に実施した。 近隣校対象に夏休み中に、公務員試験対策講座を2日間実施した。 後期は、受験生以外にも実施を検討する。	4～10月まで（受験校を決定する時期）は、連携を深めるために積極的に実施することができたが、11月以降に関しては進路説明会に参加したが、本学主催のイベントを実施することはできなかった。	B～C
2	学生募集のIT化の推進 (ii)-(B) P3	学生募集のweb活用を推進する。	大学案内や募集要項については、本学ホームページ上から閲覧が可能である。高等学校が作成する推薦書も、データファイルをダウンロードできるようにした。Web出願に関しては、費用負担が少ないシステムも検討したが、汎用性に乏しく、採用を見送った。 継続的な検討を行う。	Web出願の検討だけではなく、電子決済システムについても検討を行ったが、採用を見送った。	B
3	オープンキャンパス等への参加者数増加と開催内容の工夫 (ii)-© P3	オープンキャンパスを通じて、本学の教育内容を伝え、受験へと繋げる。	今年2月以降に資料請求や相談会に参加をした方にDMを送った。また、本学での学びを伝えるために、模擬授業や公務員対策講座、学生（卒業生）の体験談を充実するようだけでなく、参加者のニーズに合わせて分科会を充実させた。	昨年の参加状況よりは増加しているが、コロナ前までには及ばない。また、複数回参加する方が少なくなっているため、開催内容の改善と告知方法の改善が必要である。	C
4	認知拡大のために、WEB広告やホームページ等の改善	主にSNSに大学や地元木更津の状況を掲載し、それを閲覧してもらうことで、本学の学びや学生生活環境を伝えることで認知度を高める。	SNSを活用して、定期的に情報の発信を行っている。 地元木更津の様子をできるだけアピールするようにしたい。	定期的にSNSやホームページに学内の様子や情報を発信することができた。 地元木更津の様子や情報の発信は、あまりできなかった。	B～C
5	入学試験問題の検証	入学試験で出題された問題が適正であるについての検証を行う。	(IR)総合型選抜Ⅰ期で実施している「基礎学力検査」で出題した設問の正答率、出題分野の正答率を作成し、次の作問の参考とした。今後も実施する予定。 (IR)総合型選抜で実施している「小論文」でもアンケートを実施し、作問の参考にする予定。	(IR)総合型選抜で実施したすべての「基礎学力検査」で出題した設問の正答率、出題分野の正答率を作成し、次の作問の参考とした。 (IR)総合型選抜で実施している「小論文」でもアンケートを実施し、作問の参考にした。	A
6	学外ニーズ等の取り込み (C) P9	近隣高等学校、高校生の動向変化を認識する。	高校訪問や説明会参加により、ニーズの変化等を確認した。また、オープンキャンパス参加者アンケートの集計も行い、昨年度との比較を実施する予定。	近隣で実施される高校訪問や説明会に参加して、動向やニーズの変化等を確認した。 オープンキャンパス参加者アンケートに関しては、実施日によってアンケート回収率が異なるため、回答方法を工夫しながら実施をした。集計結果については、分析までに至っていない。	B～C
7	入試制度の分析	入学試験の日程や実施方法に関して検証を行う。	入学試験は、9月以降のため、特に実施していない。 (IR)イベントの参加状況と志願状況や、指定校に認定した高校の受験状況について分析する予定。	(IR)イベントの参加状況と志願状況や、指定校に認定した高校の受験状況について分析中である。	B～C

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
<p>(次年度)今年度は、進学サイトと新規契約をしたこともあり、年間を通して資料請求数が増加した。そのため、大学案内等の広報物の作成数を増加させた。</p> <p>指定校推薦の案内に関しては、4月末に対象校に対して郵送案内する。同時期に高校訪問も実施し、本学の実績や入試制度について案内をする。</p>

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
<p>入学試験のうち「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」の受験者に対して、入学試験で受験した「小論文試験」を入学前課題に使用した。これにより、入学試験、入学前教育、入学後の学修の連続性を入学予定者に認識させることができる。</p> <p>また、それにより、学修成果の点検・評価に係るデータを収集すること（IRの一環）もできる。</p> <p>課題の受け渡しを、メール等を利用することにより、入学後の遣り取りに慣れさせることを目的とした。</p>

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2024年4月15日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	大学広報 HP更新調整・SNS（Twitter・Instagram）調整	<ul style="list-style-type: none"> 大学HP TOPページ更新調整 学内活動・広報を目的としたSNS運用強化 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度に構築したSNSを学生WEB広報サークル・入試広報センターと連携し更新を実施。結果は以下のとおり。 SNSサイトのフォロワー推移 X（旧Twitter）フォロワー数： 2023年3月時点 888→10月時点 1100（222増加） Instagramフォロワー数： 2023年3月時点 347→10月時点 480（133増加） 年間計画は、X（旧Twitter）とInstagramのフォロワー数を現時点より200上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度に構築したSNSを学生WEB広報サークル・入試広報センターと連携し更新を実施。結果は以下のとおり。 SNSサイトのフォロワー推移 X（旧Twitter）フォロワー数： 2023年3月時点 888→10月時点 1100（222増加） Instagramフォロワー数： 2023年3月時点 347→10月時点 480（133増加） 年間計画は、X（旧Twitter）とInstagramのフォロワー数を現時点より200上げる。 	A
2	1F 1109教室、2F 全教室 AV機器総点検・修繕	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化に伴う授業環境の点検・修繕 教職員への操作レクチャーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度更改対象外のAV機器の修繕を随時実施中。 AV操作マニュアルはGoogle Classroomと教卓の上に紙を置き周知しているが、操作が不慣れな教員に対しては、個別対応している。 必要に応じ、教員向けにAV機器操作講習会を開催する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度更改対象外のAV機器の修繕を随時実施中。 AV操作マニュアルはGoogle Classroomと教卓の上に紙を置き周知しているが、操作が不慣れな教員に対しては、個別対応している。 必要に応じ、教員向けにAV機器操作講習会を開催する予定。 	B
3	校舎3F・4F・5F Wifi設備構築	<ul style="list-style-type: none"> Wifi環境未整備フロア（3F・4F・5F）にAPを設置し、Wifi利用エリアの拡張を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 電波範囲を調査し、9台のAPを購入。 3F 学生フロア（自動販売機前）にAPを設置。学生がWifi環境を利用できるようにした。 2023年度にはコスト削減するため、業者に依頼せず、情報センターが各階2～3台設置・設定を行う予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 電波範囲を調査し、9台のAPを購入。 3F 学生フロア（自動販売機前）にAPを設置。学生がWifi環境を利用できるようにした。 2023年度にはコスト削減するため、業者に依頼せず、情報センターが各階2～3台設置・設定を行う予定。 	B
4	学生貸出用PC整備と貸出	<ul style="list-style-type: none"> 学生に貸出し用ノートPCの整備 PCを購入できない学生へ貸出を実施（15台） 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度に学生へ貸出していたノートPCを一旦回収しメンテナンス後、貸出を実施。 PC故障・操作の質問があった際、随時対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度に学生へ貸出していたノートPCを一旦回収しメンテナンス後、貸出を実施。 PC故障・操作の質問があった際、随時対応している。 	A
5	新入生 PCログインアカウント一括登録	<ul style="list-style-type: none"> 新入生が学内NWを利用できるよう、新入生全員のアカウント登録を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度分は作業済。次年3月末、次年度の新入生が確定次第、学内NWアカウントをADサーバーにて一括作成を行う。作成後、学内NWアカウントを使用してGoogleのアカウントを作成予定。コスト削減のため、業者に依頼せず情報センターにて実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度分は作業済。次年3月末、次年度の新入生が確定次第、学内NWアカウントをADサーバーにて一括作成を行う。作成後、学内NWアカウントを使用してGoogleのアカウントを作成予定。コスト削減のため、業者に依頼せず情報センターにて実施。 	A
6	NPSサーバ ユーザ登録	<ul style="list-style-type: none"> 学内NWへのアクセス認証システムNPSサーバに新入生のアカウントを登録 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度分は作業完了。次年度に向け、NWへのアクセスの認証、認可、アカウント登録をするNPSサーバに新入生のアカウントを登録、セキュリティ強化のための設定変更を実施予定。業者に依頼せず情報センターにて実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度分は作業完了。次年度に向け、NWへのアクセスの認証、認可、アカウント登録をするNPSサーバに新入生のアカウントを登録、セキュリティ強化のための設定変更を実施予定。業者に依頼せず情報センターにて実施。 	A

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2024年4月15日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
7	CPサーバ・NPSサーバへのSSL証明書適用	・SSL証明書をCPサーバとNPSサーバに適用	・セキュリティ強化のため、学内Wifi接続時のSSL証明書、CPサーバへのSSL証明書を適用。SSL証明書は、現在1年に1回更新し適用する必要がある。業者に依頼せず情報センターにて適用。最終確認は業者へ依頼（保守内無償）。今年度分は作業完了。	・セキュリティ強化のため、学内Wifi接続時のSSL証明書、CPサーバへのSSL証明書を適用。SSL証明書は、現在1年に1回更新し適用する必要がある。業者に依頼せず情報センターにて適用。最終確認は業者へ依頼（保守内無償）。今年度分は作業完了。	A
8	図書館 IT機器（PC/プリンター）更新・定期点検	・学生使用プリンター修理・修繕 ・学生使用PCの定期メンテナンス	・学生使用のPCに導入されているセキュリティ対策の環境復元ソフトを一旦解除し、一斉メンテナンスを実施。 ・2024年3月に再度、一斉メンテナンス実施予定。	・学生使用のPCに導入されているセキュリティ対策の環境復元ソフトを一旦解除し、一斉メンテナンスを実施。 ・2024年3月に再度、一斉メンテナンス実施予定。	A
9	産学連携研究 顔認証システムの教育活用実証実験②（出席管理）	・顔認証システムによる授業時間の有効利用と教職員の負担軽減の実現	・2022年度の実験を基に、松岡情報センター長より、私立大学情報教育協会2023年度ICT利用教育改善発表会（2023.8.25）にて、論文投稿と全国配信研究発表を実施。 ・再度、実用試験を繰り返し、顔認証システムを利用した教育支援ツールを開発する。	・2022年度の実験を基に、松岡情報センター長より、私立大学情報教育協会2023年度ICT利用教育改善発表会（2023.8.25）にて、論文投稿と全国配信研究発表を実施。 ・再度、実用試験を繰り返し、顔認証システムを利用した教育支援ツールを開発する。	A
10	1205教室・1206教室・事務局PCメンテナンス	・PC98台 GoogleDriveバージョンアップの適用（月1回） ・PC98台 WindowsUpdate実施（月1回）	・1205教室・1206教室・事務局PC98台に対して、2023年4月より毎月第2水曜日に配信されるWindowsupdateを実施。 ・GoogleDriveのバージョンアップを配信がある度に実施。 ・2024年3月まで、随時メンテナンスを実施する。	・1205教室・1206教室・事務局PC98台に対して、2023年4月より毎月第2水曜日に配信されるWindowsupdateを実施。 ・GoogleDriveのバージョンアップを配信がある度に実施。 ・2024年3月まで、随時メンテナンスを実施した。	A
11	1205教室 授業支援ソフトインストール検証・導入	・授業支援ソフト ITパスポート試験疑似体験用ソフト・日商PC検定試験ソフトのインストール	・学生が円滑に使用できるよう、1205教室全台的PCに授業支援ソフトのインストールを実施。	・学生が円滑に使用できるよう、1205教室全台的PCに授業支援ソフトのインストールを実施。	A
12	学生貸出用iPadメンテナンス	・学生貸出用機器（iPad5台）のOSアップデート等メンテナンス	・IOSのバージョンアップを実施。頻繁にバージョンアップがあったため都度、実施し、セキュリティを確保。 ・2024年3月に再度、一斉メンテナンス実施予定。	・IOSのバージョンアップを実施。頻繁にバージョンアップがあったため都度、実施し、セキュリティを確保。 ・2024年3月に再度、一斉メンテナンス実施した。	A

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2024年4月15日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目		説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
13	項目	教職員・学生向け NW利用に関するユーザ向け各種マニュアル整備	<ul style="list-style-type: none"> ・Wifi接続・Zoom使用方法・PCログイン方法などのマニュアルを作成しGoogle Classroomにて周知を完了。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Wifi接続・Zoom使用方法・PCログイン方法などのマニュアルを作成しGoogle Classroomにて周知を完了。 	A
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Wifi接続・Zoom使用方法・PCログイン方法などのマニュアル整備 ・教職員へITツール活用方法をレクチャー 			
14	項目	職員向けDX講習会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・GoogleDriveの使用方法、Zoom使用方法などの講習会を情報センターにて実施してDXを推進。 ・Google Classroomの使用方法など、2024年までに複数回IT講習会を実施する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GoogleDriveの使用方法、Zoom使用方法などの講習会を情報センターにて実施してDXを推進。 ・Google Classroomの使用方法など、2024年までに複数回IT講習会を実施した。 	A
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のDXスキルの向上 			
15	項目	文科省 教職課程実地視察（Zoom視察）学内IT環境準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートPC10台とタブレットPC8台を準備し、大会議室・視察各部屋に配置。 ・視察本部（大会議室）にノートPCごとに有線LANケーブルを配線。 ・大会議室に会議室全体の映像が移るよう大型モニターを設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートPC10台とタブレットPC8台を準備し、大会議室・視察各部屋に配置。 ・視察本部（大会議室）にノートPCごとに有線LANケーブルを配線。 ・大会議室に会議室全体の映像が移るよう大型モニターを設置。 	A
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom視察を円滑に進めるための学内IT環境準備 			
16	項目	構内NWの内的環境および構外回線の調査と改善案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果、APの整備をしたため、学生のWifi利用率が高まり、調査の結果、NW回線改善が必要と判断した。 ・2024年3月にWAN側の回線増強を実施する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果、APの整備をしたため、学生のWifi利用率が高まり、調査の結果、NW回線改善が必要と判断した。 ・2024年3月にWAN側の回線増強を実施する予定。 	A
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学内LAN NWスピード調査 ・Wifi利用状況・セッション数の調査 ・外部回線契約状況把握・改善点の洗い出し 			
17	項目	1201教室 中間モニター故障・修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・1201教室のモニターが老朽化により故障。業者に依頼するとAVワゴンから全て交換となり、時間とコストが発生するため、情報センターにて物品を手配し、1週間程で中間モニターの交換・修理を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1201教室のモニターが老朽化により故障。業者に依頼するとAVワゴンから全て交換となり、時間とコストが発生するため、情報センターにて物品を手配し、1週間程で中間モニターの交換・修理を行った。 	A
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1201教室 中間モニターの故障対応 			
18	項目	教職員向け PC操作ヘルプ対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、教職員からPC操作での不明点の問合せがあり、都度、個別対応を随時実施。 ・2024年3月まで、問合せの数を減らすようIT講習会の開催を頻繁に行いITスキル向上に寄与する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、教職員からPC操作での不明点の問合せがあり、都度、個別対応を随時実施。 ・2024年3月まで、問合せの数を減らすようIT講習会の開催を頻繁に行った。 	A
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PC操作（MSOffice・ソフトの使い方）のヘルプ対応による教職員のITスキル向上 			

委員会・部局名	情報システム委員会
記入日	2024年4月15日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
19	携帯電話キャリア電波調査	・学内における携帯電話の電波障害の解消	・学内NWとは関係ない、携帯電話（ソフトバンク・ドコモ）の電波が本年6月より顕著に弱い事象が発生している。 ・調査の結果、携帯会社が基地局の移転したことが原因であり、本学だけではなく、他の木更津の一部地域は電波が入りづらい状況であることが判明。 ・まずソフトバンク社に交渉し、無償で構内各階に電波増幅器を設置させる調整を行った。	・学内NWとは関係ない、携帯電話（ソフトバンク・ドコモ）の電波が本年6月より顕著に弱い事象が発生している。 ・調査の結果、携帯会社が基地局の移転したことが原因であり、本学だけではなく、他の木更津の一部地域は電波が入りづらい状況であることが判明。 ・まずソフトバンク社に交渉し、無償で構内各階に電波増幅器を設置させる調整を行った。	B
20	授業用ノートPC5台 新規購入・設定	・授業用ノートPC増設。購入・設定・配置の完遂。	・教員が使用する授業用ノートPCの利用が増えたため、5台を新規追加。コスト削減のため、業者に任せず情報センターにて設定を実施。	・教員が使用する授業用ノートPCの利用が増えたため、5台を新規追加。コスト削減のため、業者に任せず情報センターにて設定を実施。	A
21	授業における生成AIの運用ポリシーに関する検討	・授業における生成AI運用ポリシーに関する管轄領域の確認	・第1回情報システム委員会にて、対話型AI（ChatGPT等）などの取り扱い方針について検討を実施し、以下の点について了承された。 ・ChatGPTの利用ポリシーについて：本件は学務マターであり、検討は学務セクションにて行うが、現在のところ利用規制の予定はない。 ・大学と短大でのポリシー共有について：統一する必要はなく、大学、短大の各機関でポリシーが異なっても問題ない。	・第1回情報システム委員会にて、対話型AI（ChatGPT等）などの取り扱い方針について検討を実施し、以下の点について了承された。 ・ChatGPTの利用ポリシーについて：本件は学務マターであり、検討は学務セクションにて行うが、現在のところ利用規制の予定はない。 ・大学と短大でのポリシー共有について：統一する必要はなく、大学、短大の各機関でポリシーが異なっても問題ない。	A
22	IR：学生アンケートの分析	・学生が抱える学内情報環境への障壁の抽出と解決策の検討	・分析の結果、37%の学生が、学内WiFiへの接続方法を理解しておらず、「教えてほしい」とのニーズがあることを確認した。また、WiFi増強を希望する場所として、1F事務室付近、3Fの教室や廊下への希望が多く、実質的に全館でのWiFi接続を希望する学生が多いことなどがわかった。 ・上記の分析結果を踏まえ、アクセスポイントの増強計画を立案する。また、WiFi接続マニュアルの作成と配布についても検討予定。	・分析の結果、37%の学生が、学内WiFiへの接続方法を理解しておらず、「教えてほしい」とのニーズがあることを確認した。また、WiFi増強を希望する場所として、1F事務室付近、3Fの教室や廊下への希望が多く、実質的に全館でのWiFi接続を希望する学生が多いことなどがわかった。 ・上記の分析結果を踏まえ、アクセスポイントの増強計画を立案する。また、WiFi接続マニュアルの作成と配布についても検討予定。	A

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期(半期報告書)・次年度(年間報告書)以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
「I(年間計画・到達度評価)」シート記載の2、3、4、5～13、16、17、19は、研究・教育活動におけるネットワークやマルチメディア機器の利用を促進する取り組みである。

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
「I(年間計画・到達度評価)」シート記載の1は、本学の特色や活動内容を世間に広く知ってもらうための新たな広報戦略であり、定量的に評価できる成果を上げている。同14、18は教職員のITスキル向上によるDX推進を念頭においた取り組みである。また、同22はIRを見据えた取り組みである。

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。

委員会・部局名	衛生委員会
記入日	2024年3月22日

2023年度 活動報告書

I. 年間計画およびその到達度を記載してください。（※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。）

	①年間計画		②中間到達度評価（半期）	③年間到達度評価	
	項目	到達目標	説明（後期に向けた方針等を含め）	説明	指標
1	衛生委員会の計画的な実施		今年度より衛生委員会を設置し、計画通り開催できている。後期に向けて、衛生委員会として取り組む内容について協議していく。	年間を通して計画通り、月1回の定例委員会を実施することができた。	A
	年間計画を作成し、月1回以上の定期的に開催する。				
2	(IR) コロナウイルス感染症や熱中症対策及び健康管理		保健だより等により注意喚起を行った。部活動ごとに、熱中症対策として塩分チャージタプレットの配布を行った。学生の保健室活用状況を共有し、必要に応じ個々への対応について協議することができた。	(IR) 公欠届の決済欄に医務室を加えることにより、学生のコロナウイルス感染症やインフルエンザ罹患状況について把握することができた。保健室への来室状況についても、衛生委員会で共通理解することができたが、委員会として個々への対応については十分ではなかった。	B
	教職員・学生の健康保持増進に向けて取り組む。				
3	(IR) 教職員のメンタルヘルスの把握及び対応		現在ストレスチェック表の作成及び実施方法等、養護教諭を中心に今年中（11月下旬～12月上旬）の実施に向け準備を進めている。	(IR) 12月に、今年度初めて教職員全体を対象としたストレスチェックを実施することができた。数名が多くのストレスを抱えていることがわかった。委員会で対応等について協議し、医務室担当者から該当者に対して今後の対策、対応についての相談を実施した。	A
	教職員のストレスチェックを実施し、メンタル面での不調等の早期発見に努める。				
4	学内施設巡回		月1回の衛生委員会実施の最後に、委員全員により学内巡視を実施した。併せて、清掃員から日々の報告を受けている。	定期的に開催した委員会時に、毎回全委員により学内施設の巡視を行い、危険箇所等の点検及び危険物の撤去を実施することができた。総務課と連携し、清掃員からの報告についても委員会内で共通理解を図ることができた。	A
	衛生委員会実施時に学内施設の巡回を行い、危険箇所の把握及び環境整備を行う。				
5					
6					
7					

(※記載欄が足りない場合は、適宜サイズを拡大する等によりご対応ください。)

II. 後期（半期報告書）・次年度（年間報告書）以降に向けた目標・活動予定を自由に記載してください。

記載欄
今年度同様に定期的（月1回以上）に委員会を開催し、学生・教職員の心身の健康状況の把握を行うとともに、環境整備を行う。

III. 継続的に行なってきた活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
今年度からの委員会活動のため、IVに記載

IV. 特色のある活動・取組み／新規活動・取組みのなかで、アピールできる事柄を積極的に記載してください。

記載欄
(中間・12月予定) 全教職員対象ストレスチェックの継続実施 (IR) (年間) 感染症罹患学生を把握し、対応策について協議及び実施 (IR) (年間) 定期的な学内巡視実施及び清掃員との連携を図った環境整備

V. 備考欄 ※必要に応じて記載してください。

記載欄

ご協力ありがとうございました。